

再評価調書（再々評価）

事業名		一級河川佐備川 基幹河川改修事業			
所在地		富田林市東板持町地先～富田林市佐備地先			
再々評価理由		再評価後5年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	佐備川は、昭和55年度に全体計画の認可を受け、順次下流より改修を進めているが、現在も、未改修部において時間雨量50mm（10年確率降雨程度）に対して流下能力が大きく不足しており、洪水による被害を防止するため、河川改修を進める。			
	内容	改修延長 L = 約 1.9km 道路橋 8 橋 堰 1 基 用地取得 約 42,000m ² 目標流量：200m ³ /s（10年確率 時間雨量 77.7 ミリ） 130m ³ /s（10年確率 時間雨量 51.9 ミリ） 治水安全度（現況）：約 40m ³ /s（時間雨量 20 ミリ程度）			
	事業費	全体事業費 計画約 28 億円 投資事業費約 11 億円 内用地費 計画約 15 億円 内用地費約 4 億円 （土地単価約 3.5 万円 / m ² ） 内工事費 計画約 13 億円 内工事費約 7 億円 （工事単価約 68.4 万円 / m） 再評価時点における事業費 約 49 億円			
	維持管理費	約 150 百万円 / 年			
	上位計画	大和川水系工事実施基本計画（S51 認可） 大阪府都市基盤中期整備計画（案）H13			
	関連事業				
	経過	計画時の想定	再評価時点	現時点	分析
進捗状況	事業採択年度 S55	S55	S55	整備済延長が伸びていないのに対し、工事の捗率が伸びているのは、事業費が大きい橋梁及び取水堰の改築を行なったため。 ・用地取得は順調に進んでいる。	
	事業着手年度 S56	S56	S56		
進捗状況	完成予定年度 H22	H32	H32	整備済延長 L=約 0.4 km（21%）	
	用地 - %	用地 6%	用地 26%		
進捗状況	工事 - %	工事 8%	工事 53%	整備済延長 L=約 0.2km（11%）	
	整備延長 L=約 1.9 km	整備済延長 L=約 0.2km（11%）	整備済延長 L=約 0.4 km（21%）		
途中段階の整備効果発現状況	改修済箇所から氾濫防止が図れる。				
事業進捗に関する課題					

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
		(100年確率想定時) 氾濫防止面積 99.5ha 浸水家屋 500戸	浸水戸数 約 200戸 農地浸水面積 約 10ha 重要な公共施設 中学校 1 校、府道 1 路線 災害弱者関連施設なし その他 公民館 1 箇所	(100年確率想定時) 想定氾濫区域 99.4ha 浸水世帯数 560世帯 ・幼稚園 1 箇所、郵便局 1 局、農協 1 箇所	一連区間の河川改修により、被害軽減の効果が得られる。
事業を巡る社会情勢の変化	地元等の協力体制	・改修工事、用地買収も地元の協力のもと順調に進んでいる。	用地取得も地元の協力のもと順調に進んでいる。	・改修工事、用地買収も地元の協力のもと順調に進んでいる。	概ね順調に推移している。

		計画時の想定		再評価時点での状況	現時点での状況(変更点)	分析
		備考				
事業効果の定量的分析	費用便益分析	下記、代替指標による		b/c = 1.11 年便益 b = 2.75 億円 年費用 c = 2.47 億円 算出根拠 治水経済調査要綱	B / C = 3 . 8 4 便益総額 B = 1 0 1 . 9 9 億円 総費用 C = 2 6 . 5 6 億円 ・ 費用便益算定の根拠： H 1 2 発刊治水経済調査マニュアル(案) ・ 便益内容：資産被害抑止効果 ・ 受益者：周辺住民、農業従事者等	・未改修区間を改修することにより、洪水被害を軽減できる。 ・河川改修による十分な費用対効果が得られる。
	その他の指標(代替指標)	事業効果(100年確率) ・ C / B = 1 6 . 8 年平均被害額 B = 1 . 1 9 億円 総事業費 C = 2 0 億円	・ 便益内容：資産被害抑止効果 ・ 受益者：周辺住民、農業従事者 ・ 事業効果算定の根拠：治水経済調査要綱			
事業効果の定性的分析	安全・安心	・ 浸水被害の軽減(生命や財産) 河川改修により、治水安全度が向上し、府民の生命・財産を守る。		同左	同左	平成9年の河川法改正により治水・利水に加え環境に配慮した河川整備を目標としている。 改修事業の実施区間では、治水安全度が向上している。 地域住民のやすらぎの場を提供している。
	活力	(計画時には想定されていない)		・ 交流拠点の形成(良好な水辺空間)	・ 交流拠点の形成(良好な水辺空間) 堤防道路は、小中学校の通学ルートや周辺住民の散歩道として利用されており、佐備川は常に周辺住民の目に触れる水辺空間である。	
	快適性	(計画時には想定されていない)		・ 景観(周辺住民と調和した水辺景観)	・ 景観(周辺住民と調和した水辺景観) 自然環境に重視した改修を行うことにより、視覚的にやすらぎを与える水辺環境を確保する。	
	その他					
自然環境等への影響と対策				(影響)河川改修は、現況河道の拡幅及び河床掘削により行われる。工事に伴い、現況植生は失われることになる。また、魚類、底生動物についても瀬及び淵が一時的に失われることとなる。 (対策)改修前の環境に近づけるため、自然に配慮した護岸構造とする。	同左	
その他特記すべき事項	前回再評価時の意見具申・府の対応方針の概要	(意見具申) (府の対応方針) 事業継続	今回再評価時点の反映状況			